

学校経営構想

生徒の実態
保護者の願い
地域の願い

学校教育目標
自分の未来とふるさとの未来を切り拓く生徒の育成
校訓
立志 友愛 剛健

県の指針
北の教育指導計画
大館市の教育

目指す生徒の姿

共感的協働力を備えた生徒

目指す学校の姿

ふるさとと共にある学校

愛校心・郷土愛が支える 東中三大自慢

あいさつ・歌声・東中太鼓

礼儀正しく美しく
笑顔でおもてなし

心一つに
響き合うハーモニー

伝統を引き継ぐ
鳳凰太鼓と闘魂太鼓

〈経営の重点〉

- 1 学習指導 「主体的・対話的で深い学びの実現」
 - (1) 「鳳凰タイム」を軸とした共感的・協働的な学びの追究
 - (2) 授業の基礎・基本（東中スタンダード）の徹底
 - (3) 諸調査や学習アンケートを基にした授業改善
 - (4) 道徳教育の充実→道徳科の指導方法の研究
 - (5) 家庭学習の充実
- 2 生徒指導 「礼儀正しく美しく」
 - (1) 校内外における礼儀正しく美しいあいさつ
 - (2) 心配りが伝わる言葉遣い
 - (3) 身の回りの環境を美しく整える（清掃、整とん）
- 3 特別活動 「愛校心・郷土愛の醸成」
 - (1) 共感的協働力に支えられた学級集団、学年集団の育成
 - (2) 東中三大自慢を軸とした生徒主体の活動の充実
 - (3) ふるさとキャリア教育の充実
 - (4) ボランティア活動の推進
- 4 安全・安心な学校づくり
 - (1) 登下校時の交通安全指導の徹底
 - (2) いじめ・問題行動等の早期発見、早期解決
 - (3) 教育相談、生徒支援の充実→新たな不登校を作らない

共感的協働力の育成
「子どもの最高の姿を見せる」

学校教育の向こうにあるゴール

高い志をもってふるさとを支えることのできる人材の育成

自己評価 Aと外部 評価の評 価区分	きわめて良好	自己評価 Bの評価 基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対して100%達成
	良好		4	実現状況は良好で意識も高い／数値目標に対して80～99%以上達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対して60～79%以上達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対して40～59%
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対して39%以下の達成

ア
生徒の
状況

I 自主的・自律的な生活

生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
仲間を大切にしながら、礼儀正しいあいさつと規律ある生活を送ろうとしている。	前期	おおむね良好	良好	肯定的な回答の割合が高いことより、意識の高さがうかがえる。また、東中生のあいさつは地域でも評価が高い。相談活動の充実において、毎月の振り返りアンケートの実施は評価できる。今後も効果的に活用しながら、生徒の指導に努めてほしい。
	後期	良好	良好	基本的な生活習慣について、全体的に意識の高さがうかがえる。あいさつについては、コミュニケーション能力を高めるためにも、更にレベルを上げて欲しい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期（→年度）】 全学年とも90%以上の生徒が「楽しく学校生活を送っている」と回答している。また、あいさつ、清掃、時間を守る、ということに関して肯定的な回答の割合が高く、生徒の意識が高いことがうかがえる。基本的な生活習慣をしっかり身に付けることができるよう指導を積み重ねていきたい。			
	【後期（→次年度）】 生徒アンケートでは、「楽しく学校生活を送っている」、「一生懸命清掃に取り組んでいる」、「時間を守った生活や行動をしている」の項目で肯定的な回答の数値が上がり、前期同様、良好な状態である。「困ったことや悩み事を相談できる人（友だち・家族・先生など）がいる」の数値も上昇しており、生徒は安心して充実した学校生活を送っている。「場に応じた元気な（礼儀正しい）あいさつをしている」の数値が前期より下がっている。東中三大自慢の一つとして、今後更に力を入れていく。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
1 基本的な生活習慣	(1) あいさつや清掃など共通理解に基づいた指導	年間を通したあいさつ運動 清掃指導	4	4
	(2) 自律的な学校生活	生活のきまりの厳守 時間の意識化 週番活動		
2 相談活動の充実	(3) 生徒指導の三機能を生かした指導	教育相談 人間関係づくりの推進	3	4
	(4) 積極的な生徒理解と連携	毎月の振り返りアンケート 保健室や家庭との連携 スクールカウンセラーや外部機関との連携		

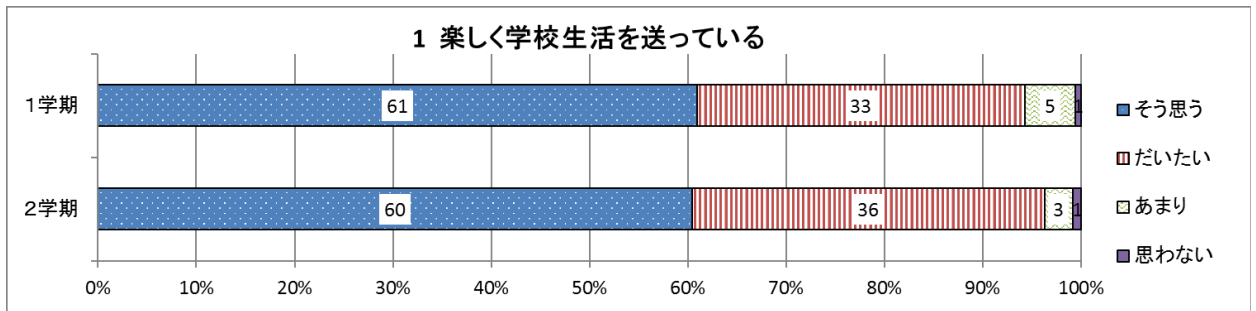
【評価指標 1】 基本的な生活習慣

生徒

1学期
3.55

↓

2学期
3.56

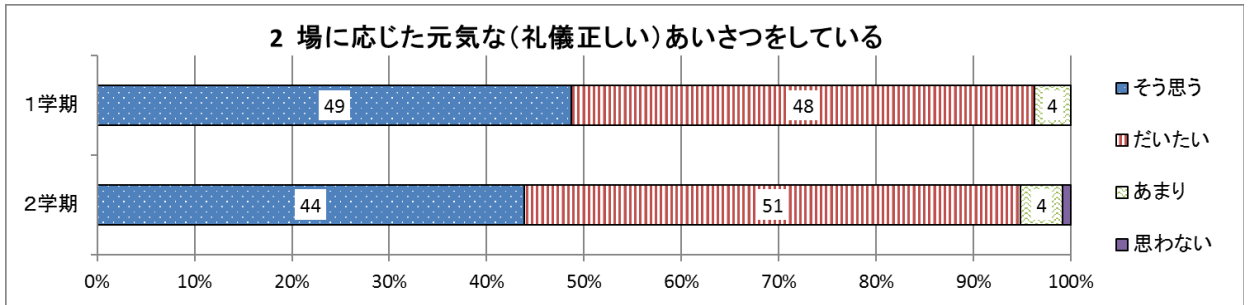


生徒

3.45

↓

3.38

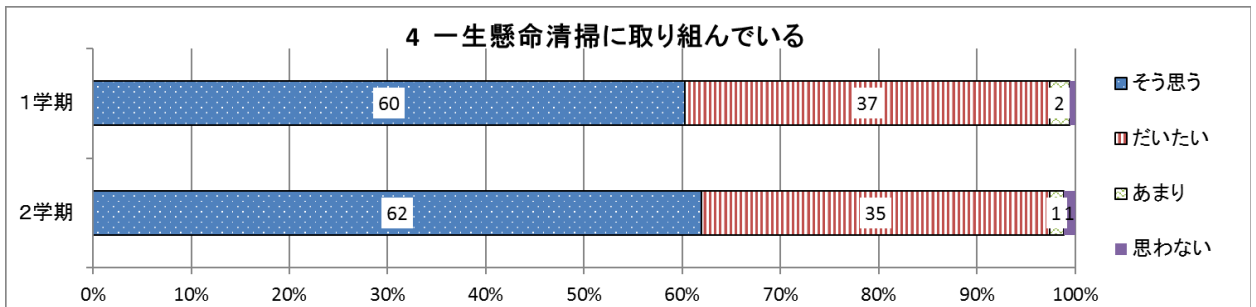


生徒

3.57

↓

3.58

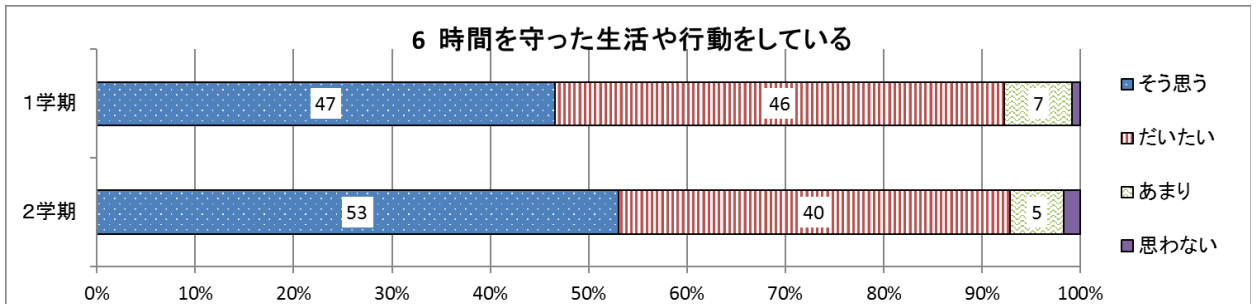


生徒

3.38

↓

3.44



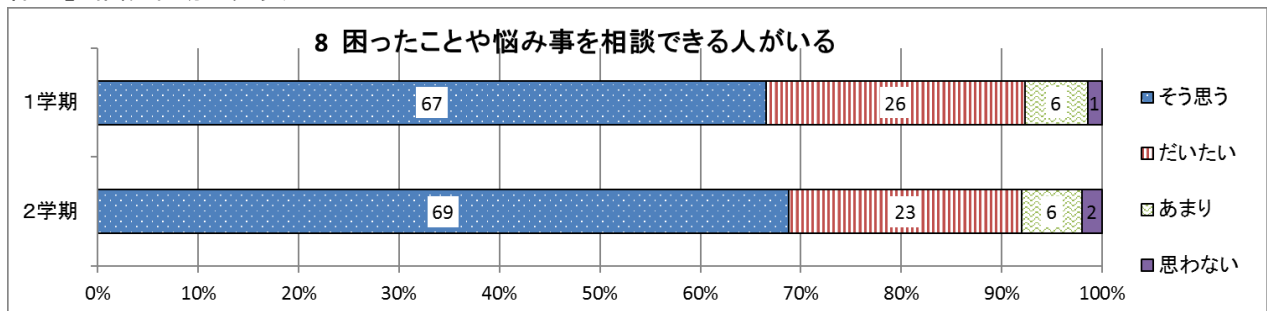
【評価指標 2】 相談活動の充実

生徒

3.57

↓

3.59



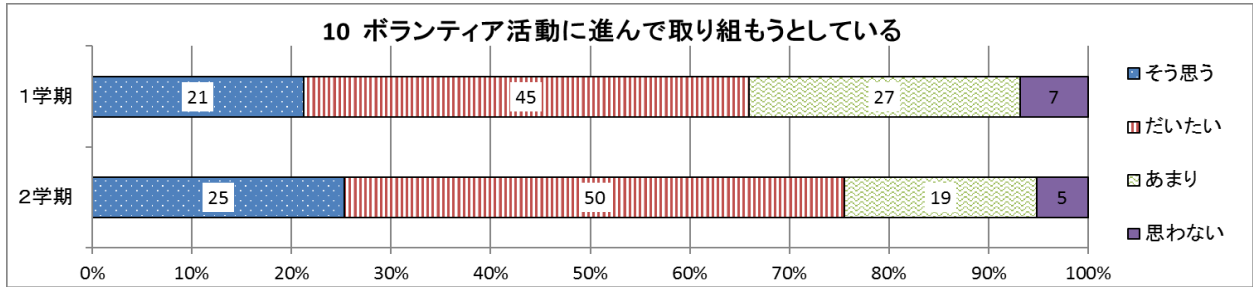
Ⅱ 思いやりとたくましい心

生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
互いに認め合い、切磋琢磨しながら、一人一人がよさを発揮し、豊かな学校生活を送ろうとしている。	前期	おおむね良好	良好	他校では取り組むことのできない大きなプロジェクトに挑戦し、愛校心・郷土愛の醸成に努めている。今後、「東中三大自慢」の意識を高めてもらいたい。
	後期	おおむね良好	おおむね良好	コロナ禍の中ではあるが、今までにない試みを考え地域に元気を発信することができた。ボランティアについては、自分を高めるきっかけにもなるので、よりよい方法で進められるように考えて欲しい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期（→年度）】</p> <p>「豊かな体験活動」については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、延期や中止となったことで1学期中に実施できなかった活動が多かったため、「ボランティア活動」に関するポイントが昨年度よりも低下したととらえている。ふるさとキャリア教育を推進する活動として、今年度立ち上げた、「花善・東中コラボ 大館名物おみやげプロジェクト」は、プロジェクトメンバーを中心に、全校生徒が高い意欲をもって取り組んでおり、愛校心や郷土愛の醸成、将来ふるさとを支えようとする自立の気概をもった生徒の育成につながる活動になっている。</p> <p>「共感的協働力」や「学級内での人間関係」等、「集団活動の向上」についてのアンケート結果の数値も概ね高いポイントを示しており、行事の削減・変更や休校措置があったものの、生徒一人一人が自分たちの学校生活を充実させようと諸活動に取り組んでいる。</p> <p>2学期には、各種行事や延期されていた体験活動を実施予定である。これらの機会を生徒が自分の進路や将来について考えを深める大事な機会と捉え、生徒の意識を更に高めていきたい。</p> <p>後期も、今年度から掲げた「東中三大自慢」を意識させて、豊かな心の育成に努めたい。</p>			
	<p>【年度（→次年度）】</p> <p>前期に引き続き、後期も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、体験活動、学校行事等において、大幅な制限、変更を余儀なくされた。そのような逆境の中でも、学校、保護者、生徒が知恵を絞り、工夫をしながら活動を行うことができた。</p> <p>花善×東中コラボおみやげプロジェクトでのエコバッグ、ふせんの開発・販売活動、修学旅行代替企画「学校に泊まろう」、きりたんぼ祭り応援企画「地域の方を招いてなべっこ&東中太鼓映像発信」など、生徒が力を合わせ、ふるさとに元気を届ける活動を展開した。これらの活動が愛校心、郷土愛の醸成を培うとともに共感的協働力を高め、集団生活の向上につながっている。</p> <p>次年度は、東中三大自慢－あいさつ・歌声・東中太鼓－を軸に、更に飛躍する東中生の姿を地域に発信し、思いやりとたくましい心の育成に努めたい。</p>			

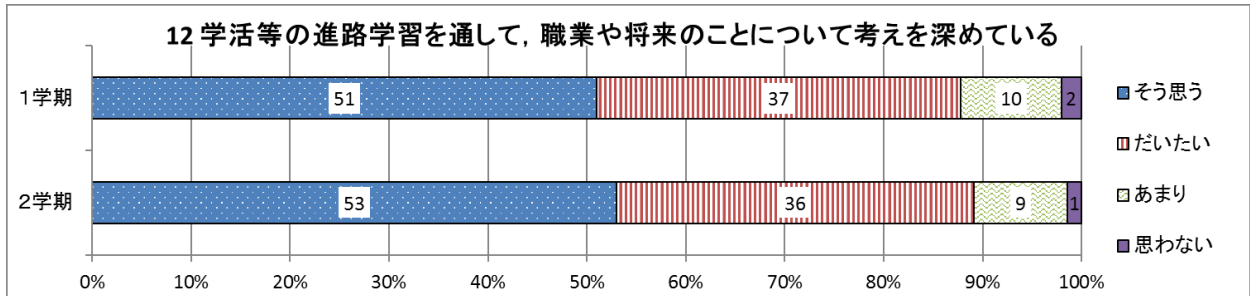
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
3 豊かな体験活動	(5) 愛校心、郷土愛の醸成 ふるさとに根ざし、自立の気概を育てる指導	東中ボランティア、きりたんぼ祭りボランティア 子どもワークへの参加 おみやげプロジェクト 職場見学、職業講話：1年生 職場体験学習、大館PR活動：2・3年生	3	4
4 集団生活の向上	(6) よりよい生活や人間関係の構築	学校教育活動全体を通じた道徳教育 学級プログラム・係活動での一人一役 鳳凰集会などの話合い	3	3
	(7) 共感的協働力を高める集団活動	東中三大自慢－あいさつ・歌声・東中太鼓－の推進 学校行事や生徒会行事の充実	3	3

【評価指標3】豊かな体験活動

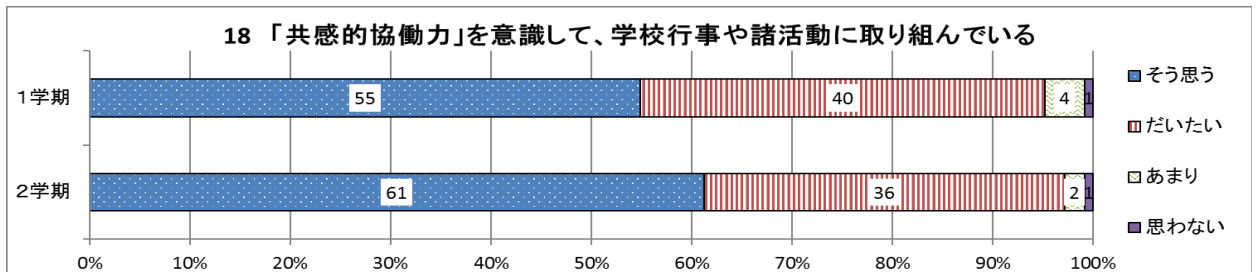
生徒
1学期
2.80
↓
2学期
2.96



生徒
3.37
↓
3.41

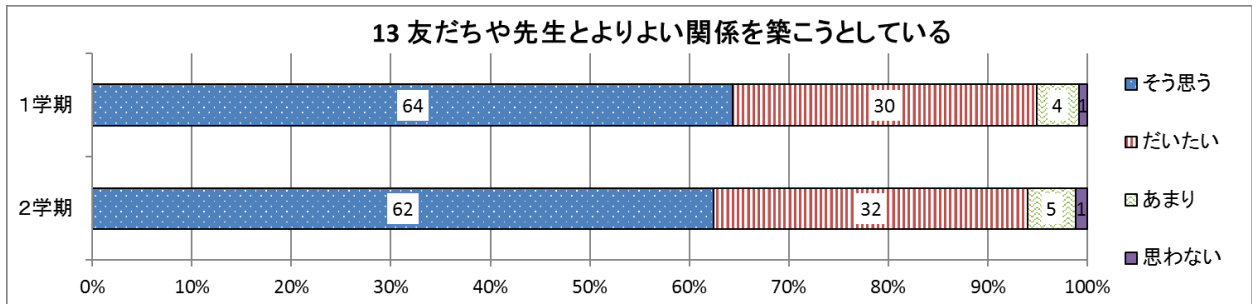


生徒
3.49
↓
3.57

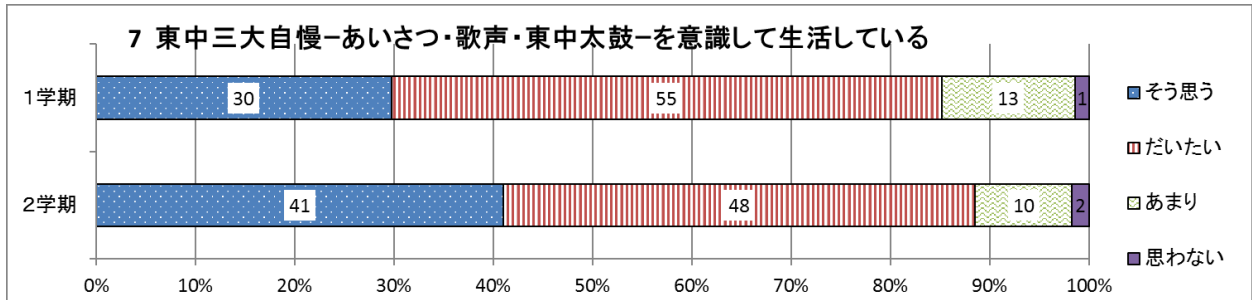


【評価指標4】集団生活の向上

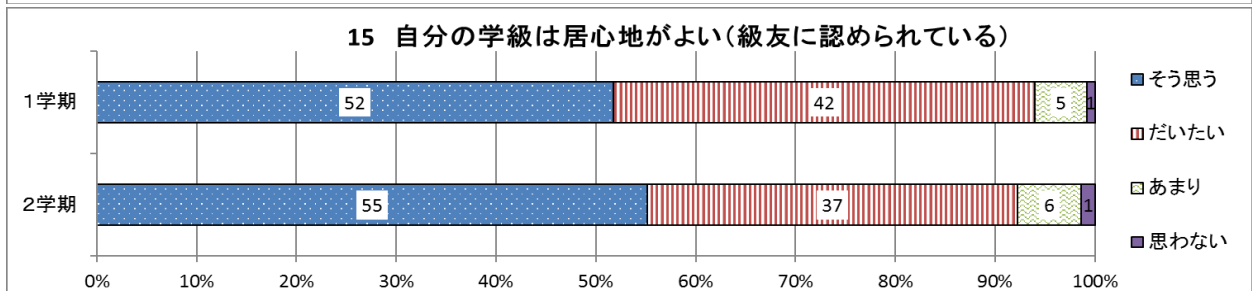
生徒
3.58
↓
3.55



生徒
3.13
↓
3.28



生徒
3.45
↓
3.46



Ⅲ 基礎学力

生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基本的な学習習慣を身に付けている。	前期	おおむね良好	良好	基本的な学習習慣を意識して取り組んでいる。「家庭学習」については、家庭学習の取組の問題点や改善点を見付ける工夫をしたり、家庭学習の意義を家庭に浸透させたりすることで、「そう思う」の割合を高めてほしい。
	後期	おおむね良好	おおむね良好	生徒は、授業に集中していた。先生方が工夫して授業している姿を生徒も感じている。保護者に家庭学習ノート見てもらう取組もよい。今後も、自分の思いを伝えられるように育てて欲しい。

自己評価の概要と学校の改善策

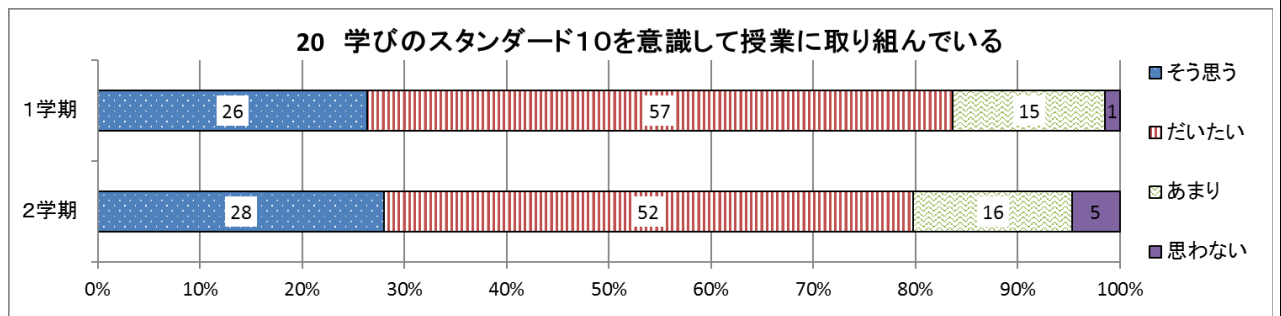
【前期（→年度）】
 今年度から「学びのスタンダード10」を提示し、授業で取り組むべき10個の約束を、4月の学習集会で教師と生徒で共通理解し、実践してきたが、「学びのスタンダード10を意識しているか」の設問に対して、肯定的に答えている割合が、1年生77%、2年生89%、3年生85%と、学年によりばらつきが見られた。1学期は、取組状況が教師によって差が生じ、生徒への十分な意識付けができていなかった結果であると思われる。教師側の意識を高め、取組を強化できるよう改善していきたい。
 「東中スタンダードを意識している」の設問には、肯定的な回答が96%であった。夏季休業中に行った校内研修会で、授業の基礎・基本と深い学びを創る教師のコーディネート編を再確認し、2学期の授業改善に努めたい。
 「効果的な家庭学習を行っている」（生徒）「家庭学習の習慣が身に付いている」（保護者）については、生徒・保護者共に80%以上が肯定的に回答をしている。今後も、学級担任や教科担任が一人一人に合った学習方法を提示したり、ノートを見合う会を設定したりすることで、自身の家庭学習を振り返り、より質の高い家庭学習になるように支援していきたい。

【年度（→次年度）】
 生徒アンケート「学びのスタンダード10を意識して、授業に取り組んでいる」、教師アンケート「東中スタンダードを意識して、授業を行っている」の、肯定的な回答の平均は前期とほぼ変化はないが、授業指導の基本について今一度共通理解をし、日常の授業実践を行っていききたい。生徒の授業に向かう姿勢は前期同様良好であり、基本的な学習習慣の確立が主体的な学び、深い学びへつながっていると捉えている。
 充実した家庭学習については、生徒アンケート「家庭学習ノートを活用し、自分に合った効果的な家庭学習を行っている」では、肯定的な回答の割合が上昇した。保護者アンケート「家庭学習の習慣が身に付いている」では、逆に下がる結果となった。後期の取組として、家庭学習ノートを保護者に見てもらい、励ましやアドバイスのコメントをもらうという取組を行った。「このような機会がなければ、子どもの家庭学習ノートを見ることがなかった」という保護者もあり、今後も様々な取組を工夫し、生徒、保護者の意識を高めていきたい。

評価指標	実践課題	主な取り組み	自己評価B	
			前期	後期
5 基本的な学習習慣	(8) 望ましい学習習慣の確立	東中スタンダードの定着と深化	3	3
6 充実した家庭学習	(9) 効果的な家庭学習の支援	目的意識をもたせた家庭学習への支援	3	3

【評価指標5】基本的な学習習慣

生徒
1学期
3.09
↓

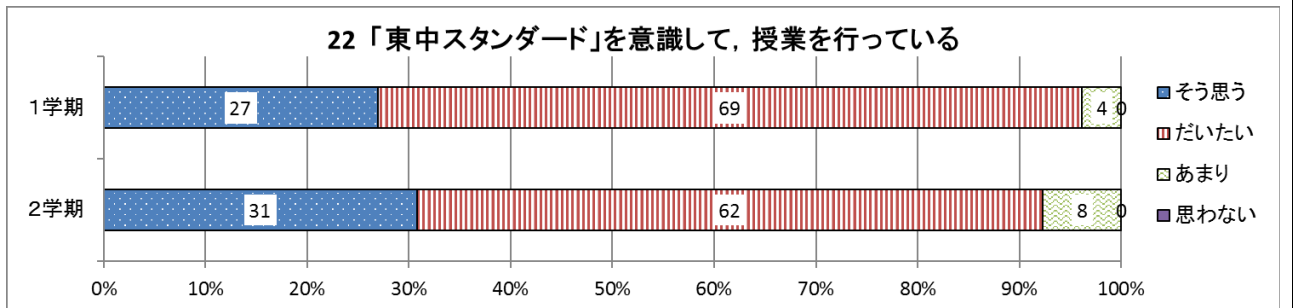


教師

3.23

↓

3.23



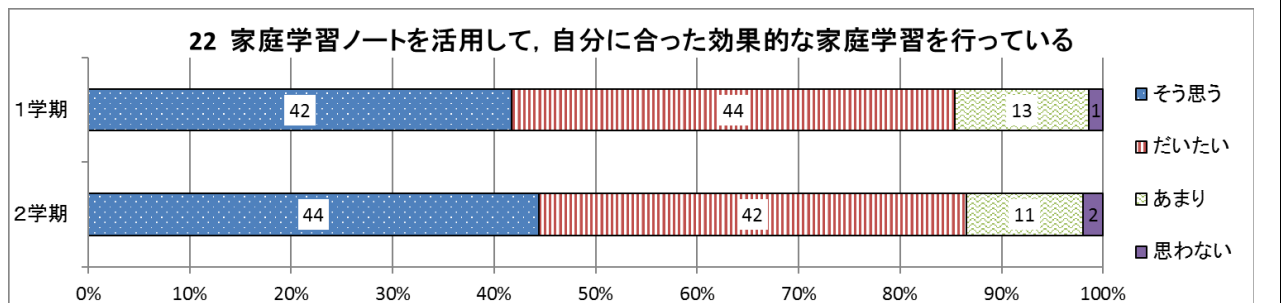
【評価指標6】充実した家庭学習

生徒

3.26

↓

3.29

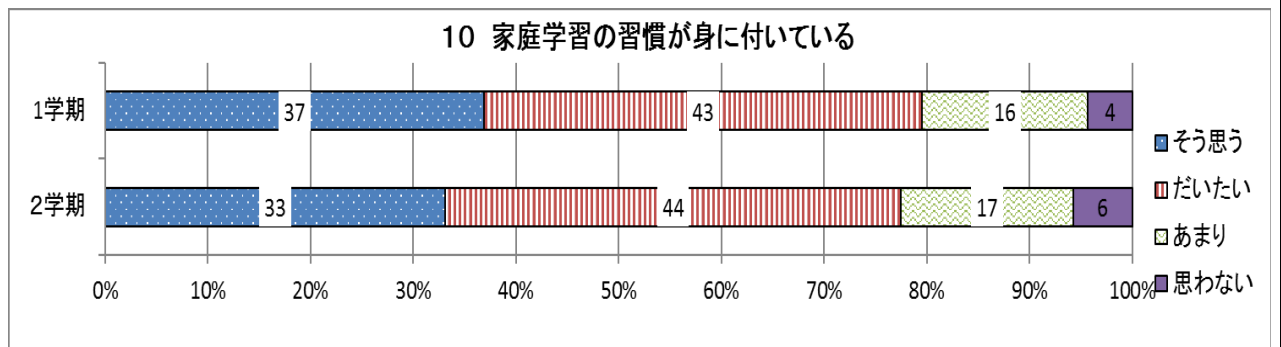


保護者

3.12

↓

3.05



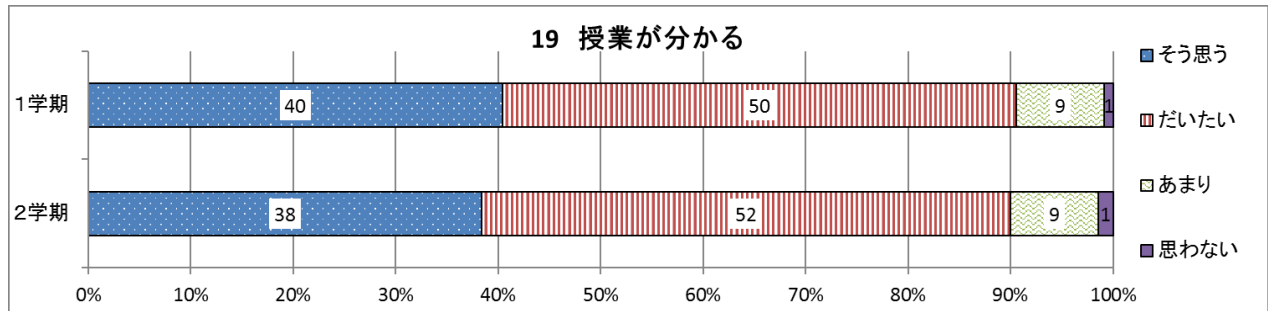
IV 教師の研修

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の研究課題の解決に取り組むとともに、自らの指導力を高めるための研修に努め、指導力の向上が図られている。	前期	おおむね良好	良好	先生方も生徒も一生懸命授業に取り組んでいた。先生方の質が高くなっている。「先生方は熱心に授業をしている」に対して肯定的な割合が高いことから、生徒と先生の良い信頼関係のもと、授業が進められていることが分かる。
	後期	おおむね良好	良好	先生方が授業に対して、更なる高みを目指している様子が分かる。「授業が分かる」と「先生方は熱心に授業をしている」の数値が同等になることを期待したい。
自己評価概要	<p>【前期（→年度）】 今年度の研究主題は『共感的・協働的な学びを通して、主体的に学び合い、高め合う生徒の育成～思考力・判断力・表現力を鍛える「鳳凰タイム」の深化を目指して～』である。昨年度、軌道に乗り始めた「鳳凰タイム」の実践を、より深化させて生徒の学びを充実させていくことが今年度の重点となる。生徒アンケートの結果を見ると、「授業が分かる」に対して各学年とも80%以上の生徒が肯定的に回答しており、全体で+0.05ポイント上昇、「先生方は熱心に授業をしている」はほぼ全ての生徒が肯定的に回答をしており、全体で+0.08ポイント上昇、「鳳凰タイム」を軸とした授業改善の成果が表れてきたと捉えたい。生徒の学びのゴールはどこにあるのか、「鳳凰タイム」ではどんな生徒の学びの姿を引き出すことができればいいのかを学校に明確にもてるように、今後も職員間で研修を重ねていきたい。</p> <p>夏休みに行われた研修会では、新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」の内容について、各教科毎に本校の「鳳凰タイム」の実践と重ね合わせながら考えることができた。新型コロナウイルスの感染予防もあり、なかなか研究主題の実現に向けて共通実践が難しいが、今後も東中の生徒の学びを一段引き上げられるように、職員全員で力を合わせて頑張っていきたい。</p>			
	<p>【年度（→次年度）】 今年度は4回の校内授業研究会、県や市の研修会における授業提示、釧路市教育委員会の教育視察など、多くの方々に東中生の学ぶ姿を見ていただくことができた。参観者からは、「鳳凰タイム」の中で生徒が話し合いを進行し、教師のコーディネートのもとで活発に話し合いをしている姿を見て、東中生の学びの姿に感動したという感想をいただいた。「鳳凰タイム」を通じた授業改善が、学校全体の授業のスタイルとして定着してきている。</p> <p>生徒アンケートでは、「授業が分かる」、「先生方は熱心に授業をしている」の項目で、前期同様高い評価を得ており、教師と生徒の良い人間関係のもと、授業が進められていることが分かる。</p> <p>教師アンケートでは、「研究部報や研修会で学んだことを指導力の向上に生かしている」、「諸調査の結果を分析し、授業に反映させている」のいずれも前期より肯定的な回答が上昇した。「鳳凰タイム」や研究会での、授業力向上のための研修を通して、全職員が前向きに授業改善に取り組み、生徒の学びを高めようと努力していることがうかがえる。今後も本校の特色である「鳳凰タイム」の実践を通して、質の高い学力を身に付けられるよう研修を深めていきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
7 授業改善の推進	(10) 単元構想力の向上 魅力ある導入の工夫	各教科の見方・考え方を生かした授業構想 諸検査データの分析と活用	3	3
	(11) 共感的・協働的な学びの追究	教師のコーディネート力の向上 鳳凰タイムの深化 振り返りの充実		
8 研修の実施及び活用	(12) 研究会を通しての指導力の向上	研修成果の情報提供 効果的な研究会の実施	3	4
	(13) 各教科での取組の共有	教科部会の充実 教科部会と学年部会の連携		

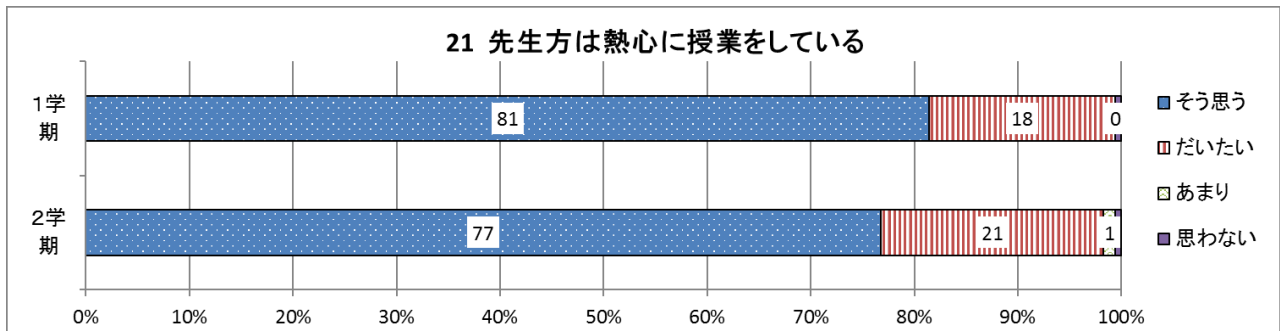
【評価指数7】授業改善の推進

生徒
1学期
3.30
↓
2学期
3.27



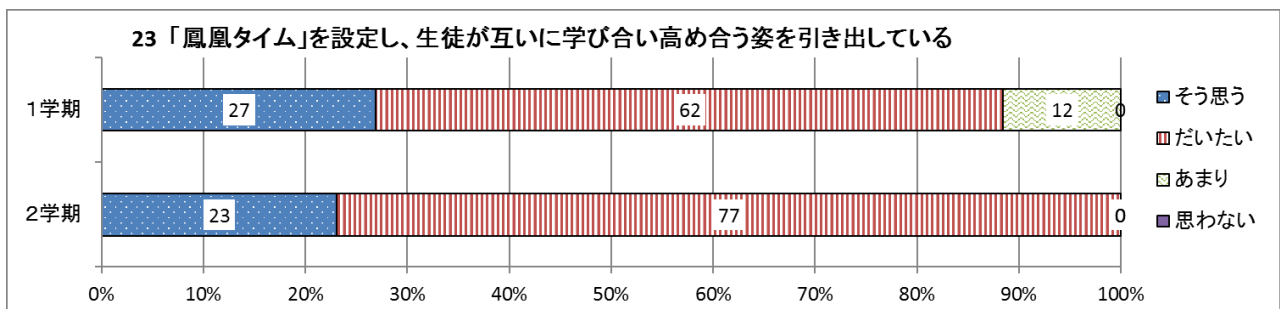
生徒

3.80
↓
3.74



教師

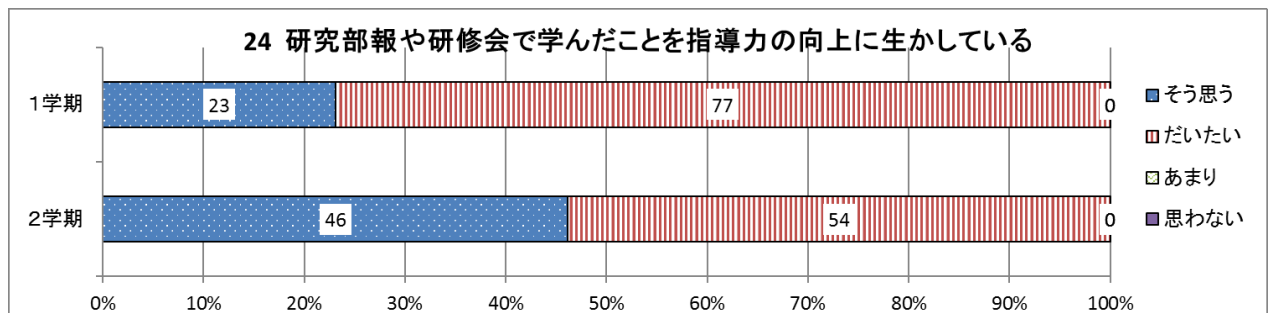
3.15
↓
3.23



【評価指数8】研修の実施及び活用

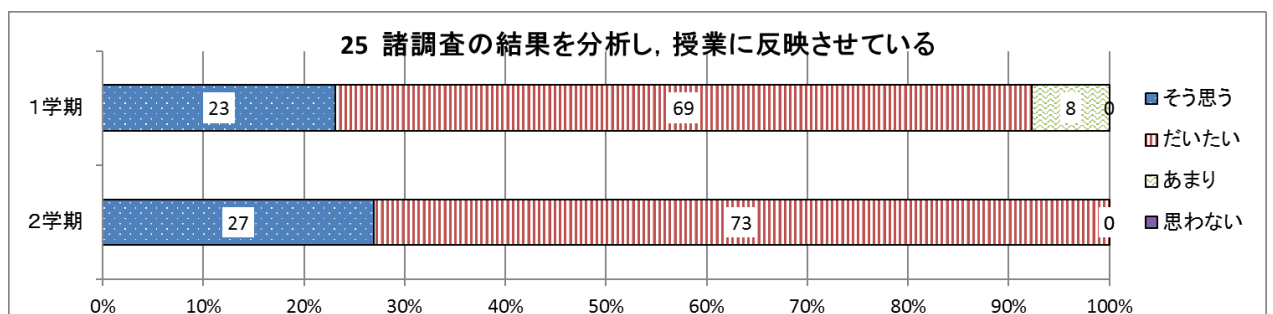
教師

3.23
↓
3.46



教師

3.15
↓
3.27



V 保護者・地域との連携

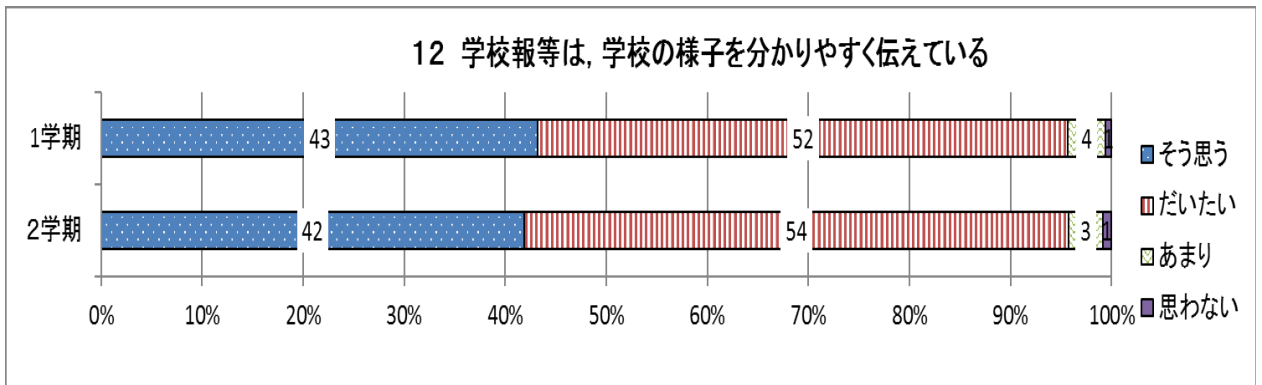
学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の取組が分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が効果的に活用されている。	前期	良好	良好	保護者との連携においては良好な状態が保たれている。地域人材の活用については、意識の高さは感じられるが、まだ工夫の余地がある。学校から、もっとニーズを発信してほしい。
	後期	良好	良好	コロナ禍でもあるにも関わらず、自然な形で地域と共に様々な活動ができていた。それによって、保護者と学校、地域と学校のつながりが強まっている。次年度以降も、地域に元気を発信して欲しい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期（→年度）】</p> <p>「学校だよりや学年だよりは、学校の様子を分かりやすく伝えている」については、肯定的な回答が全校で95%であり、極めて良好である。学校評価保護者アンケートの自由記述にも、「学級・学年だより、メール等で学校の様子がよく分かりありがたい」との声が多かった。</p> <p>「PTAは主体的に活動している」については、肯定的な回答が全校で93%で、本校のPTA活動が充実していることがうかがえる。</p> <p>「学校は地域との連携に取り組んでいる」については、肯定的な回答が全校で96%であり、極めて良好である。今後も、地域貢献やボランティアの意義を理解させながら、東中生の最高の笑顔を地域に届けられるように様々な活動に取り組ませたい。</p> <p>また、教師の93%が、地域の人材を授業等で活用していると答えており、生徒に身に付けさせたい資質・能力や1時間1時間のねらいを達成するための効果的な活用方法を今後も探していきたい。</p>			
	<p>【年度（→次年度）】</p> <p>「学校だよりや学年だよりは、学校の様子を分かりやすく伝えている」については、肯定的な回答が全校で96%であり、前期同様、極めて良好である。</p> <p>「PTAは主体的に活動している」については、肯定的な回答が全校で93%で、保護者の方々が学校に対して協力的であり、本校のPTA活動が主体的に行われていることがうかがえる。</p> <p>「学校は地域との連携に取り組んでいる」については、肯定的な回答が全校で97%であり、前期より上昇した。極めて良好である。花善×東中コラボおみやげプロジェクトや学校に泊まろう、東中ボランティアや地域の方々を招待してのなべっこ、東中太鼓の映像配信などで、保護者や地域の方々と連携し、地域に貢献することができた。また、ふるさとキャリア集会において、大館を拠点に活躍している方々と意見交換することで、自分の未来とふるさととの未来を切り拓こうとする気概を育てる事につなげることができた。今後も、地域とのつながりを大切にしながら、将来高い志をもってふるさとを支えることのできる人材の育成に努めたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
9 保護者との連携	(14) 教育方針や教育活動についての効果的な発信	教育活動等が見える各種だよりの充実 ホームページ、連絡メールの活用	4	4
	(15) 行事や諸活動の工夫	保護者の活動を通じた協力体制づくり 保護者の主体的な活動のための支援		
10 地域の教育力の活用	(26) 地域学校協働本部事業等を生かした教育活動	地域人材の効果的な活用 学校と地域住民等との双方向の連携 地域コーディネーターの活用	3	4

【評価指標9】保護者との連携

保護者
1学期
3.38

↓
2学期
3.37

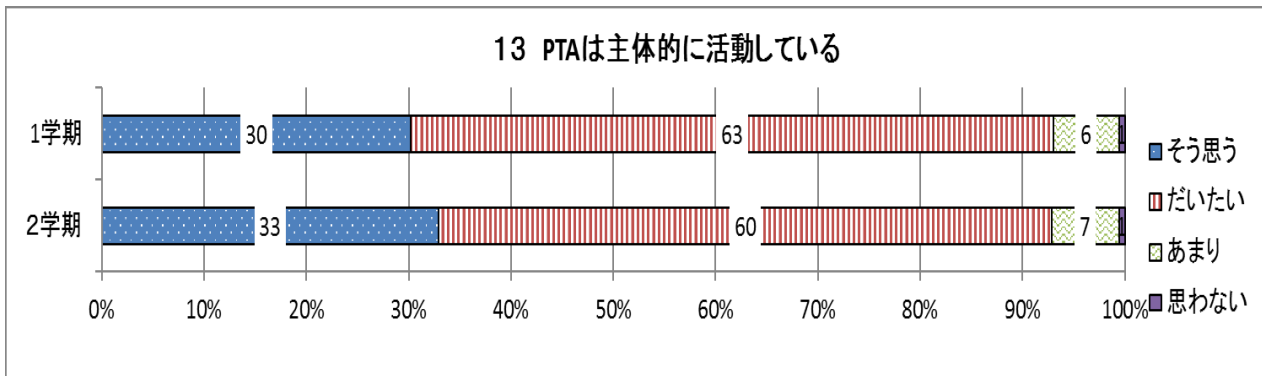


保護者

3.23

↓

3.25



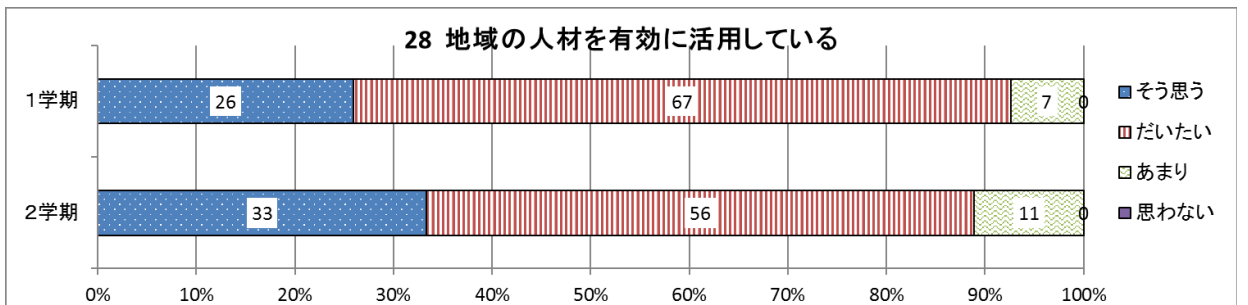
【評価指標10】地域の教育力の活用

教師

3.19

↓

3.22



保護者

3.27

↓

3.44

